

夏まきブロッコリーの播種期について

1. 試験のねらい

ブロッコリーは、県内においては夏播き栽培が主な作型となっている。最近作期拡大が要望されているので、早播きの限界を明らかにするため試験を行った。

2. 試験方法

品種はシャスター、緑嶺を用い、播種を5月10日、25日、6月10日、25日、7月10日の5回行い、5×5cmの連結ポリポットで育苗し35日苗を定植した。栽植距離は畝幅70cm、株間45cmとし、施肥量は成分量でN2.2、P₂O₅1.8、K₂O2.2kg/aを施用した。試験規模は1区20株の2区制で実施した。

なお、50%の株が出蕾した時を出蕾期とし、花蕾重は花蕾の高さを15cmに切って調査した。

3. 試験結果及び考察

生育及び収量については第1表のとおりで、各播種期において、シャスターより緑嶺が出蕾期、収穫期とも遅い傾向にあり、播種後から収穫までの所要日数を見ると、約2週間の開きがあった。花蕾重については、シャスターで6月10日播種が最大であったが、緑嶺については5月10日と7月10日播種が大であった。最大葉の葉長については、品種間の差は特に認められなかったが、7月10日播種の緑嶺が大であった。

生育障害及び品質については第2表のとおりで、リーフィーはシャスターで6月10日区が最も多く発生し、5月25日及び7月10日区は発生が見られなかった。緑嶺については、5月25日区が最も多く発生し、7月10日区は発生が見られなかった。軟腐病については、特にシャスターの6月10日区が最も多く発生が見られた。花蕾の色まわり、小蕾の大小及び、濃淡についてはシャスターに比べ緑嶺が良く、特に7月10日区が優れた。

以上の結果から、リーフィーや軟腐病の発生を考慮して、夏播きにおける早播き限界は、本県の平坦地においては7月上旬であると考えられた。この場合、収穫期は9月下旬ないし10月上旬以降となり、旬別平均気温が20℃以下になる時期であった。すなわち気温から見て、20℃以下になる時期から逆算して100日前が播種限界と考察された。

4. 成果の要約

夏まきブロッコリーの早播き限界を知るために、播種期が生育収量及び、品質に及ぼす影響について検討した結果、シャスター、緑嶺ともに7月10日の播種期で適応性があり、それ以前の播種期については適応性が認められなかった。

(担当者 野菜部 石川 孝一)

表-1 生育及び収量

品 種 名	は種期	出蕾期	収穫期	花蕾重	花蕾径	梗 径	最 大 葉 cm	
				g	cm	cm	タ	テ ヨ コ
シ ャ ス タ ー	5.1 0	7.3 0	8. 8	2 7 0	1 4.5	3.4	5 9	2 4
	2 5	8.1 2	8.2 0	2 4 7	1 4.6	3.4	5 6	2 5
	6.1 0	8.2 8	9. 5	2 9 4	1 3.3	4.0	5 7	2 3
	2 5	9.1 6	9.2 4	2 2 9	1 2.1	3.7	6 0	2 3
	7.1 0	9.2 9	1 0. 6	2 4 4	1 2.2	3.6	5 9	2 2
緑 嶺	5.1 0	8.1 0	8.2 0	2 9 9	1 1.9	4.1	5 4	2 2
	2 5	8.2 3	9. 3	2 3 8	1 2.9	3.7	5 8	2 3
	6.1 0	9. 5	9.1 6	2 0 4	1 3.5	3.8	5 4	2 2
	2 5	9.3 0	1 0. 9	2 4 9	1 1.2	4.0	5 9	2 1
	7.1 0	1 0.1 8	1 0.2 4	2 9 5	1 1.8	4.3	6 7	2 3

表-2 生育障害及び品質

品 種 名	は種期	リーフィー 発生程度	軟 腐 病 発生程度	花 蕾 品 質			適応性の判定
				色まわり	小蕾の大小	濃 淡	
シ ャ ス タ ー	5.1 0	1	0	0	0	0	△
	2 5	0	1	0	0	0 (基	△
	6.1 0	2	2	0	0	0 準)	×
	2 5	1	1	0	0	0	△
	7.1 0	0	0	0	0	0	○
緑 嶺	5.1 0	1	1	+1	+1	0	×
	2 5	2	1	+1	+1	0	×
	6.1 0	1	0	+2	+1	+1	○-△
	2 5	1	0	+1	+1	+1	○-△
	7.1 0	0	0	+2	+2	+2	○

注 1. リーフィー発生程度…多(2)、少(1)、無(0)

2. 軟腐病発生程度…多(3)、中(2)、少(1)、無(0)

3. 花蕾品質…色まわり(-2、-1、0、+1、+2)、小蕾の大小(-2、-1、0、+1、+2)

不良 ← → 良

小 ← → 大

濃淡(-2、-1、0、+1、+2)。ただし、シャスターを基準とする。

淡 ← → 濃

4. 判定基準…×適応性なし、△やや適応性あり、○適応性あり。